

どういうことを狙ってやるものなのかというところを、⁽³²⁵⁾根本に考えれば、学生が保育の面白さや、深さや、やりがいを感じたり、考えたりする、そしてそれが子どもも理解や保育園のよきより、より高度な理解というか、求めようとする気持ちになつていくのか、そういったことになつていくような記録や評価、そういうことをもう一度考えなければいけないだろうなというふうに思った。

実習園でも自信を持って実習指導は任せてというふうな所もあれば、教員のほうでも自分は保育の専門じゃないんだよなと言いがながらも何かやっているとだんだんすごくしつかり、いい指導をしている先生もいる。そういうふうなこともトータルに裾野を広げつつも、⁽³²⁶⁾何かもう少し教育とか実習自体の根本的なところにシフトを変えられなれないかというふうに思う。

⁽³²⁷⁾例えばアクティブラーニングとか、⁽³²⁸⁾環境を通して保育ということがずつと言われて、ここは特に6年間言われているけれども、⁽³²⁹⁾何か実習の面に関しては、割とちよつと古さを残しているんじゃないかというものが、私の実感ではある。もちろん、⁽³³⁰⁾根本的な保育以前のことも大事なんですけども、その上の専門性をどう構築していくかということも、それが人に教えられたり、指示されたりすることだけでは身に付かないだろうと思う。そのときの、いろいろ、例を挙げてくださった中に、アクティブラーニングとか、⁽³³¹⁾自分が他者との関わりの中で、子どもだったり、保育者だったり、その中で自分を深めながら、見つめながら、そこであるいるなことに、この多感な18、19、20、21のときに気付く、そこで何か出合い直しというところ、ですけれども、保育では子どもをこんふうにイメージしていたんだけれども、もつと面白いんだ、もつと深いんだとか、そこで発見してくれるといいなと思う。その発見のきっかけが実習だったり、直に子どもと関わったり、保育者と非常に深い話をしてきたという学生がたまにいますが、そういうことになつてくる可能性というものも持っているんじゃないかと思う。そういう意味でこの実習の可能性と、もつと変わるのではないかなというところを、皆様方の話から、非常に感じている。いろいろ示唆に富むお話をたなと思つている。

(効果的な実習とは?)

⁽³³²⁾例えば諸外国なんかでは、カリキュラムを書くことができる保育者とか、実習指導の資格のある保育者とか、割と保育者集団の中で、階層というか、専門性の序列がある。私は⁽³³³⁾日本の保育園というのは、非常に平等で、温かくて、保育園だけじゃなくて、幼稚園もそうですけど、そういう意味では、「あなたはこれではできない」とか、そういうふうにあまりなっていない。おもうような意味であると思う。しかしそれはやっぱり、その雰囲気、⁽³³⁴⁾温かさは大事なんだけど、実習指導ができる専門性とか、カリキュラムをきちんと描ける専門性とか、そういう専門性をつけていくための研修も一方では必要である。先ほど実習に関する研修というのが出てきて、素晴らしいなと思う。その実際の実務、業務の内容を、きちんと整理して、全員が共

園同士もそのような話ができている。対話が成立していないことによるズレが、二層構造、三層構造で存在していることを再確認した。

このことが実習の多岐な側面に渡って生じている。たとえば、⁽³⁴⁰⁾記録についたり、事前指導でどのような指導をしているのかというところ、養成校ではさきうち決めて、現場にあわせて柔軟に思つており、実習園では「どこまで指導してもらつているのか」と疑問を持たれているというふうな感じがある。⁽³⁴¹⁾指導実習についてもそのような状況がある。また、園は⁽³⁴⁵⁾実習生がどうしたいかを伝えてほしいと思ひ、養成校ではそこまで具体的に踏み込めない。それは実習園によって違うからというジレンマを抱えている。実習生の位置づけも色々な学生がいるから、実習園にご迷惑をかけるないようにという側面もありつつ、だけれども⁽³⁶⁰⁾実習園からはチームの一員としてというありがたいお言葉がある。保護者支援も幅がある。⁽³³⁶⁾なんとという言いかわからないほどの対話の不足と⁽³³⁷⁾認識のズレがあるというふう思う。

実習指導について時間軸でみていくと、⁽³⁴⁴⁾事前指導でどのようなことをしているのかということをも⁽³⁴⁶⁾養成校と実習園で共有する機会としてオリエンテーション、⁽³⁴⁶⁾訪問指導というものが⁽³⁴⁷⁾その工夫で何らかのつながりができるのではないかと思う。事前指導についてはこのように互いに了解しあえる機会をもっている。しかし、⁽³⁴⁸⁾実習を終えて評価をした後、どうなっているかということのフィードバックが、今の実習体系の中では課題として残っていることをあらためて感じた。養成校では事後指導というのは次の実習に生かそうというふう前に前向きに考えているけれども、実習園の先生方はあればどうなつたのかなと思つているのだから、そのようなフィードバックがもちろん必要であった。たしかに今、それがないと、あらためて思つた。

⁽³⁶⁶⁾研修への期待についてもそれぞれ語られたが、⁽³⁶⁷⁾何らかの形で同じ土俵で最低⁽³⁶⁸⁾これはやるべきこととというこというようなスタンダードを確認し合える場が本場に今必要なことと実感した。

⁽³⁴²⁾保護者支援も残された課題であることが明確になった。⁽³⁴³⁾これは、重要な保育者の役割と言われなかで、保育実習のなかではそれが落ちている、十分に吟味されていないということがある。もつと積極的にやつていかねければならない。

内容として、記録、実習の内容としてとくに指導実習をやるかどうか、⁽³⁴⁹⁾実習生が保育中どういうチームの一員として位置づけられているのか、実習生が自分の実習として何を語るか、この4つに関して認識のズレがありながら、お互いがちゃんとしたと思つて、知りたいと思つているので、この4つがとても大事であると思う。

最後に、今日、うれしかったことは、学生が発信する場というものを実習先でも養成校でも大事にしていることである。まず、実習園では、オリエンテーションの時に自分が何をしたいのか、夢を語りなさいとおっしゃつてくださつたこと。学生は実習の前に⁽³⁶²⁾自分の言葉で自分の実習をこうしたいと

	<p>有でさるようにするという意味では、⁽³³⁵⁾ 実習指導もマニュアル化し過ぎるのはよくないと思うが、ある程度押さえられることは共有しなきゃいけない。そこを確認することと結果として、効果という方がいいか分からないういでも、そういうことにながっていく、そういう皆が共有して確認できる実習指導のあり方というか、具体的な内容というものは必要だと思う。</p>	<p>いうことを語ることが保障されている。実習後は、⁽³⁵³⁾ 聞き手がいて⁽³⁵⁴⁾ 学生が自らの体験を語る場というのを養成校が大事にしている。中心にあるのは学生であり、⁽³⁵²⁾ 実習の前に学生が自分の言葉で語る機会を保障され、⁽³⁵⁵⁾ 終わった後にきつちりと語って誰かに伝えていく機会を養成校も大事にしているということば、すごくうれしいことだと思う。</p>
--	--	---

質問項目	グループ A	グループ B
<p>事前指導</p>	<p>グループ A</p> <p>養①：県の養成協議会で⁽¹⁴⁾共通の手引きを作らせておられます。そちらのほうに沿って授業をしております。こちらのほうは、⁽¹⁵⁾実習の意義、⁽¹⁶⁾目標、準備物で、⁽¹⁷⁾実習生の心得ということと現在特に言われています⁽¹⁸⁾守秘義務などをやらせてはいただいております。</p> <p>本学では保育所実習の中でも一番初めの実習になりますので、やはり⁽¹⁹⁾マナーや⁽²⁰⁾実習に向けての心得ということからやっていると現状になります。</p> <p>実習につきましては種別がさまざまありますので、⁽²¹⁾種別の違いを学生には伝えていき、そして実習に向けて取り組んでいくというような形になります。</p> <p>正直なことを言いますと、種別ごととにさまざまな利用児者の方がおられますので、その⁽²²⁾全ての方に対応した授業をするということが難しいのが個人的な課題とは思っております。</p> <p>その中で、本学は⁽²³⁾介護福祉養成もありますので、<u>その教員とも連携して、知的障害児者が必要になってくる⁽²⁴⁾車いす、移動介助、食事介助等、そういうふうな生活支援については、そちらの教員の方と連携を取りながら説明をしております。</u></p> <p>あとは、児童福祉施設全般において、実際に現場に行くのが理想ではあるのですが、本学は 140 名ほど学生がおりまして、その学生が施設に行きますと、やはり施設側のほうが、利用児者の方が落ち着かなくなってしまうので、⁽²⁵⁾ビデオを見ていただく。あとは直近では、10 年来的先輩で、現在、⁽²⁶⁾児童福祉施設で働いている先輩に来ていただき、<u>現場の様子や実習生に望むことを話していただいている</u>ような形となっております。一応、そういう形で本学としては事前指導をしております。</p> <p>養②：私どもも、基本的には県の某協議会で作成している⁽²⁷⁾手引きに沿って内容的には進めております。</p> <p>必須の内容としては、⁽²⁸⁾基本的なマナーと、それから⁽²⁹⁾守秘義務とその責任に関する事項というのは徹底していくようにしております。それから、⁽³⁰⁾実習課題の設定に力を入れるようにしております。それから⁽³¹⁾日誌の書き方というところ。大きくは、この 4 つが課題になっているところなんです。</p> <p>私どもの場合ですと、工夫している取り組みとしては、現場などの職員の方と。現場体験としては、⁽³²⁾見学実習ということで、前年度に障害系の施設と児童自立支援系の両方にお伺いして、そちらの業務を教わらせていただくのと、それから、それぞれの⁽³³⁾施設の実習担当の職員の方から「<u>実習に向けて、こういうことにぜひ取り組んでほしい</u>」ということをお話しいただきます。その後、前年度の実習経験者である⁽³⁴⁾先輩たちの発表を、後期が</p>	<p>グループ B</p> <p>養①：短大の養成校の場合、保育士の実習とはいえ、⁽³⁵⁾知的障害の施設がほとんどになっていて。今までの生活の中で、障害をお持ちの方に接するという機会がほとんどないので、1 年生の夏に、1 日以上、自分で⁽³⁶⁾ボランティア先も開拓をして向う。まず「見てくる」体験をし、その⁽³⁷⁾体験を基に、<u>障害についての講義を事前指導の中に入れる。</u></p> <p>また、⁽³⁸⁾施設の職員の方に講話を頂いて、⁽³⁹⁾視聴覚教材を使いながら、様子を見せていただき、どういうふうに通コミュニケーションを取るかとか、こういうときにどうするのか、施設の实習では、こんなことを体験してほしいというふうなお話を頂いている。</p> <p>養②：独自の科目として、2 年次に〇〇演習という科目を、1 年生の後期と 2 年生の前期に設けている。</p> <p>その授業の中で、保育士がいる⁽⁴⁰⁾施設でのボランティア体験というものを含めて行っている。授業の中で、1 年生の後期から、⁽⁴¹⁾現場職員の話も含めて行って、春休み期間中にボランティア先を自分で見つけ、自分で交渉して、⁽⁴²⁾「こういうボランティアをしてみたい」ということを先方にちゃんと交渉をして、自分の意思を伝えて、5 日間以上という期間を設けて体験している。</p> <p>学生は保育所を選ぶケースが多いが、ボランティア体験をした後の「〇〇演習 2」という授業の中で、それぞれ体験してきたことを持ち寄って、グループで話し合っていて、それで、⁽⁴³⁾施設ではどういふ子どもたちが生活している、どういふふう保育士がそれぞれ支援しているのかということもいろいろいると話し合ったり、「自分はこういうふう動いたんだけれども、いろいろ不十分な点があった」なんていうことも含めて話し合う。</p> <p>ボランティア先を選ぶときに、「保育所ばかり行かないように」と指導する。結構、乳児院とか、障害者関係の施設とか、いろいろな施設、児童養護関係の施設ですとかも、全体の 1 割ぐらいはそういうところまで体験してくる。グループ分けをして、振り返りをして、次の保育実習指導 1 のほうにつなげていく。</p> <p>必ず⁽⁴⁴⁾オリエンテーションまでに、<u>自分なりの実習目的</u>を作って、それを現場の先生に提出するよということを課す。ただ、それは、現場の先生からすると、まだとても抽象的な目標だと思います。</p> <p>実習に出す前には、保育実習の大まかな目的としては、⁽⁴⁵⁾施設の働き方の理解、そして、⁽⁴⁶⁾施設における保育士の、あと、⁽⁴⁷⁾子ども理解、そこで子どもたちが、どういう状況を生きてきた子どもたちがどういふふう生活しているのかという子ども理解、あとは⁽⁴⁸⁾保育士の専門性の理解、「この 3 本は必ず大事なことだからね」ということを言って、それに即した形で目標を立てて、それを実習担当教員がやりとりをして、チェックをして、それで修正させて持</p>

	<p>終わる時点で、⁽²⁴⁾ポスター発表という形で、次年度の予定者は、見学の後、その発表を聞きままして、春になって自分たちも希望する施設を決めていくというような形で、⁽⁴⁾できるだけ自分たちの「どういうことを学びたいから、ここに行きたい」ということを⁽²⁶⁾実習前に、ある程度、イメージできるような工夫をしております。</p> <p>もう一つは、実習指導のあり方が、例えば⁽²⁷⁾守秘義務の問題等ですと、私もと学生の感覚の違いというのが最近、非常に大きくなってきているので、2年前からですが、学生のSAを実習に関しては6人ほど付けて、どのような内容について、どういうふうに伝えていくことが学生にとって分かりやすいかということと⁽²⁸⁾学生の視点からも意見を言ってもらって、<u>実習経験者である学生のSAと教員とで、項目によっては一緒に内容を検討して、後日、反映させていくというようなことを行っております。</u></p>
オリエンテーション	<p>施①：事前指導ということで、オリエンテーションは必ず実施しております。その中で、⁽²⁹⁾施設の概要ですとか、そういうところを知らせていく中で、やはり⁽⁷³⁾具体的に伝えていくことを大切にしています。具体的に申しますと、もう⁽⁷²⁾実際の場面でのエピソードを踏まえながら、学生に知っていただき、感じていただけたらというふうに思っているんですけども、やはり事前指導をさせていただいた後、実際に実習に来られたときにお忘れになっている学生も多いのかなというふうにも感じる部分もありますので、その点に関しては、実習に来られてからも繰り返し施設のほうでもお伝えするようにはしています。</p> <p>やはり⁽⁸¹⁾施設の中に足を踏み入れたことがない学生も多々いらっしゃると思いますので、オリエンテーションのときは、硬い雰囲気にならずに、「こういった施設は初めてかな」というような話もしながら、⁽⁸¹⁾どんなイメージがあるかというような学生の思いも聞きながら、オリエンテーションの実施という</p>
	<p>ってあって、現場の先生に見てもらおうということをやっています。そこでまた⁽³⁾具体的にオリエンテーションの話を書いて、目標を作り変えて、それですまた日誌に書き、臨むようになっていく。</p> <p>施①：実習担当から何からやってきました。今みたいなお話が進んでいるのだから、とてもいいことだと思ふ。⁽³⁶⁾先生たちが現場に来ていただきたい。⁽³⁷⁾事前に、どういう施設で、どういうことを、日常的にはどう支援をするのかというところを、幾分、皆さんが実習に来たら、こういうことを」という話をして、その前に、知的障害児者の、うちは一番古いので、歴史と、どういう成り立ちで来たのかとかというの、もう本当に百何十年の歴史を30分ぐらいでしゃべり、それで実際に今、こういうことをしているということを話す。</p> <p>施②：事前指導のときに、社会常識のところ、やっぱり学生もだいぶ変わってきていて、幾つか、僕もどこかで話したことがあるんですけども、学生のノートを書き方というところで、⁽³⁴⁾基本的な常識のところとか、あと、多分、⁽³⁴⁾履歴書とかも書いたことがない学生がいたのか、以前、名前の印鑑を下の名前を押す学生がいて、すごくびっくりした。</p> <p>本名の常識というところで分かっていない方というのが多いのか、⁽³⁸⁾ノートの書き方一つでも、「(笑)」とか書いてあったり、多分、どこの大学でも指導されているとは思いますが、結構分かっていない学生もいて、僕としては、外に出ていくんですけども、結構分かっていない学生もいて、僕としては、外に出ていく常識というところで、知識としてももちろん大切だと思ふんですけども、そういう⁽³⁹⁾社会常識というところのレベルが下がっているのかなと思ふので、学生と担当の先生方が接していく中で、足りないと思ふことを伝えていただければ。</p>
	<p>養①：今年度から、児童養護施設に限って、⁽⁶⁴⁾事前オリエンテーションを⁽⁶⁴⁾内の児童養護施設合同でやるという試みをした。各施設ごとの⁽⁶⁴⁾約束事、ルール、⁽⁶⁹⁾歴史のこと、「そもそも、児童養護施設って、どうなんだ」という話は、あらためて現場の先生からお話を頂いて、「⁽⁴²⁾日々の生活がこういう感じだから、こういうことを勉強してきてね」とかというところを、学校と施設と両方から話をするというようところで、⁽⁴⁰⁾言葉遣いもしかり、⁽⁴⁰⁾生活態度もしかり、なかなか保育の学生たちというのは、保育所保育士や幼稚園教諭を目指してやっばり来ているので、施設というか、⁽⁶⁵⁾施設実習や施設に対するイメージがあまりない。その中で、やっばり⁽⁶⁵⁾イメージをどう作っていくか。で、なかなか学ぶというところが難しいので、とにかく、体験をして、そこから考える。先ほど、「学校で学んでいることと現場の」という話を頂きましたけれども、学校でしか学べないことと、やっばり現場でしか学べないことがあって、⁽⁶⁴⁾現場で学んできたことを学校に戻ってきて考えるのが実習の</p>

のは取り組むようにしていますし、⁽⁶⁸⁾施設内も必ず案内して、⁽⁶⁹⁾どういった場所があるかとか、⁽⁷⁰⁾実際の雰囲気を見たいだきようにはしています。

今お聞きしていて、とても十分に取組んでくださっているのかなというふうに思いますし、やはり養成校のほうで感じていらつしやる、養②の先生がおっしゃった、⁽⁷¹⁾今の学生と指導教員の方々のイメージされていることの違ひを感じておられる部分というのは、施設職員のほうでも感じることはありますので、共通認識の下、学生への指導はしていただいているのかなというふうに思いました。

施②：某自治体では児童養護施設、乳児院等、数が多いんです。それで、某自治体の〇〇協議会が施設福祉部として、児童施設部会、高齢介護の部会とか、長らく活動をしています。特に養成校と施設は、もう多分、今年で38年になります。保育士養成校と児童福祉施設の実習研究懇談会が、大体6月から7月かに毎年、交流の場を設けて積み上げてきました。その中で、最近は同じようにガイドブックを委員会として作っている。今、最終局面になっているので、これも、うちの施設としても、また生かそうかと。現在は、自分のそういう施設で、「しおり」でしています。

それと、学校に対しては、もう、そんな望むというのは、これまでも散々そういうやりとりをしてきたから、今さらはないですけれども。ただ、就職フェア等とかも、本当に最近では、もう、やっぱり僕らも⁽⁷²⁾タブレット等とかで、1日の様子、1年の様子等とかを視覚構造化して見せていくということがかかり必要になってきているので、意識はしています。

それと、やっぱり社会的養護施設なので、実習の指導の事前のポイントは⁽⁷³⁾家族と離れて暮らさざるを得ない子どもたちの体感で、その施設という感じで来てもらって、⁽⁷⁴⁾一人一人の子どもの心象、心の象というか、そこで児童福祉を考えてもらう。

ひいては、それがやっぱり我が国の施策として、座学での学びと合わせて上げていってほしいと。それで、社会的養護施設なので、やっぱり、まず導入部としては、それぞれの⁽⁷⁵⁾子どもたちの成育歴のこととかを含めて、実習生自身が自分の生い立ちと相対化して感じてほしいという部分と。

あと、私たちは障害児入所施設なのでやはり知的障害、医学的には精神発達遅滞、自閉症発達障害がいて、ああいった⁽⁷⁶⁾障害の部分の説明というのもし施設独自のマニュアルじゃないですけれども、こういうものの、いかに触れる部分を、勉強もされているでしようけれども、より深められるかというの意識しています。

それと、やっぱり⁽⁷⁷⁾思春期を生きる集団であること、それから実習の期間の中では、⁽⁷⁸⁾ケースワークという部分については、もう入り口の部分しか無理なのかもしれないけれども、⁽⁷⁹⁾できるだけ包括的に分かってほしいと考えて接しています。

機会だからということを重点的に話しています。

オリエンテーションのときには、⁽⁸⁰⁾「これとこれとこれとこれとこれとこれは必ず聞いてくるように」と、それを報告するという形で、学び以前のところとそとの不具合が生じないように、きめ細やかに指導していかなきやと思っっています。

マニュアル化するのは簡単ですけれども、本当に考えなくなってしまうので、⁽⁸¹⁾最低限どういうふうには標準化をするか、ここまではみんなが同じように情報を持ってオリエンテーションに同って、それぞれがそれぞれ違う所で、⁽⁸²⁾自分がどういうふうにしてそこで実習を展開していくのか、学んでいくのかというところを考えるとというふうには心掛けてはおります。

養②：最近の学生は実習に行く前に、⁽⁸³⁾とても不安感の強い学生が多い。例えば、障害のある人に実習まで全く接したことのない学生なんというのも結構いますし、あとは、乳児院とか児童養護施設に関しては、やはり虐待の問題が社会的にもクローズアップされていますので、⁽⁸⁴⁾とても暗い場所じゃやないのかとか、偏ったイメージを持っていました。でも、⁽⁸⁵⁾全く知らないところにも身を置くということに対する不安感も強く、今どきの学生というのは、結構評価の視線にさらされてきているところがあって、⁽⁸⁶⁾ほかの人の視線がとてつもない。評価されるんじゃないか、期待どおり動けないんじゃないかという、そういう不安を抱えています。⁽⁸⁷⁾オリエンテーションというのは、とても貴重な場で、やはり今までよく分らない場所に行くという、その分からないことがいろいろ確認できる場ということになる。

オリエンテーションがどういう場なのかとしっかりと説明しています。オリエンテーションは、施設についてのさまざまな⁽⁸⁸⁾理念とか働きなどが説明されたり、⁽⁸⁹⁾保育士の職務が説明されたり、それを⁽⁹⁰⁾実際に見学できると、さらには、実習に臨むに当たって、さまざまな実習生としての態度とか、そういったことをしっかりと確認できる場だから、それを⁽⁹¹⁾しっかりと確認して、くるところによって、積極的に不安を解消して、不安だけで心配になっていた部分を少しちゃんと理解してきて、実習に臨むようにということの指導はしています。「オリエンテーションがこういう場だから、こういうことをしっかりと確認してくるように」なんていうことを、その目的と確認すべき事柄を、こういう手引きなんかを配っていますので、こういう⁽⁹²⁾手引きを通して説明をしている。2年ぐらいい前までは、幼稚園と保育所、保育実習は別々だったんですが、共通している面が結構ありますので、これを合わせたものを作っています。

施①：知的障害とか、障害を持っている子どもと相対するのが初めての人はいい。かと思えば、特別支援学級が自分の学校にあったとする。⁽⁹³⁾見学もやりますし、⁽⁹⁴⁾どういいう仕事をしているのかもやるんですけども、オリエンテーションの時間もそんなに潤沢にあるわけではないですから、何し

施①：オリエンテーションの実施も、できるだけ⁽⁶³⁾各大学の方のみで行うようにさせていたと思います。やはり人数が増えますと、⁽⁶²⁾学生自身がどういった考えをお持ちであるかとか、どういったお気持ちを抱いているかとどうも4名までというところでオリエンテーションの機会を設けるように気を付けています。

施②：人数的には確かに、4までといったことはないですけれども、3人くらいまでと。

以前は、それも講義実習でしたけれども、某自治体では公共交通機関も発達しているの、今は通勤をベースとしているので、その間の中で、やっぱり⁽⁷⁰⁾夜間に、星間は騒がしい子どもたちも、眠っている中の匂いで感じることもあるので、もう、これは保育実習との違いだと思わなくてはなりません。やっぱりそういう点の、⁽⁷⁰⁾当たり前の、こうやって日常生活動作、衣食住みたいなものを。学生は、もう便利な時代で当たり前になっているだけども、ものすごく、その間、こうやって、ちゃんと食事を取る、睡眠を取るといったこととかで、実習生にとっても刺激が大きいと思うので、やっぱり⁽⁷⁰⁾その大切さみたいなものはオリエンテーションの機会では取れるようにしています。

養①：やはり授業の中では、一般的なことが中心になりがちです。できるだけ具体的に説明をさせていただこうと思っていますが、短大の2年間で、うちの現状を言わせていただきますと、1年の終わりで実習に行かせていただいている中では、細かいところまで⁽⁶⁶⁾自分の中で積み上げることが難しいのが正直な印象として思っております。ですので、施設の先生方に、より事前訪問で具体性を持って、今言っていた大ききましようにさせていただけると、⁽⁴⁹⁾「あ、この施設はこうなんだ」というふうに深められるかなというふうに思っています。実際の実習の大体、ひと月前から2週間前くらいまでには行くようにして行かして、そちらに行かせていただいて、再度、⁽⁶⁹⁾学内に帰ってきて、もう一度、それを振り返り直して、もう2週間で実習に臨んでいくということが理想ではありますが、やはり⁽⁶⁷⁾うまくだまらず、実習に行かせていただいて、実習先のほうでさまざまに指導をしていただいていたのが実感で、深めるというところが3割から4割くらいなのかなというふうなのが実感であります。

養②：実は私どものところは、⁽²⁹⁾できる限り自分の希望先というところで考えてはいるんですけれども、どうしても保育希望の学生ですと、⁽³⁰⁾児童養護施設に随分、偏ってしまうことがあって。ですけれども、⁽³¹⁾数としては障害系の施設が多いという中で、⁽³²⁾自分がそもそも希望はしていないかかった施設に配属が決まる学生も多々います。ただ、早めにもう、そこを切り上げて。私

る、⁽⁶⁶⁾うちの施設がこの地にある、どういうことを営んできたのかということと、実際に、それこそ、⁽⁶⁶⁾こういう子たちがいるんですよ」ということですよね。

⁽⁷¹⁾課題を持ってきて、「こういうことをやりたいんです」と実習生の方がおっしゃらないですか。それはそれで、とても尊重させていただいて、たっ、「10日や14日で、それは」と思う。それは思うんですけど、それはそれでいいんです。その気持ちで来ているわけだから。だから、最終的には、⁽⁶⁹⁾障害児を知らなかった人にも知ってもらおう。それで、⁽⁷⁴⁾同じ時代に、君たちとあまや年が変わらない人たちがこういいうところを生活している。どうしてそういう生活をしなきゃいけないのかというところを分かってもらうことなんです。だから、2週間やって、そのままうちで1人の勤務ができていいたら、絶対できるわけではないわけですから、僕らとしては、そこまで大きなことを実は求めていないんです。

男性だったら、男性職員が、担当が付く。だから、その間は、その人の休みのはかば、サブをややさんですけれども、その人と同じ早番、遅番、日勤とかをやる。同じ人に付いて。

知的障害児施設で働きたいという人は少ない。だけど、「⁽⁶⁷⁾こんな面白い仕事はないんだぞ」と教えることぐらいで、職員にはそれぐらい、その後、例えば、ボランティアに来てもらうとか、そういうことをしてもらったほうが、よっぽどその人のためになるし、うちのためにもなる。知ってもらおう。だから、オリエンテーションでは、もうそこです。こっから課題がどうのこうのは言わない。

施②：⁽⁶⁴⁾毎年5月に、その年に受ける学生（24名ほど）の方たちに来てもらいます。⁽⁷²⁾事前レポートを提出していただき、1日かけて（10時から5時）講義を受けてもらいます。理事長のほうから⁽⁶⁸⁾施設の概要、事務職員から補助金とかそういう措置費について、お昼を挟んだ後に、ケアワーカーの主任から子どもたちの生活についてと関わり方、ケースワーカーのほうから、今、養護施設、家族再統合と、親支援の概要、食育もすごく大切にしますので、調理師、栄養士による講座、途中で⁽⁶⁸⁾見学が入って、最後にわれわれ実習担当のほうから、実習に関する諸注意、質疑応答という形で、約1日かけて行っています。あくまでも広く浅くということなんですけれども、実習するに当たっての基礎知識というところで講座を行っています。

<p>実習期間中の経験内容</p>	<p>どもですと、配属が決まるのが5月の頭で、10月が実習です。で、大体、1カ月前の9月ごろにオリエンテーションにお伺いするんですが、そのオリエンテーションでのお話やレクチャーを通して、(46)自分の実習に向けての課題を、漠然としていたものを明確にしていくことができるというふうにご考えておりました。</p> <p>一時期は、少しオリエンテーションのところでも、単に、どうしても遠方だったりすることもあるんで、お話を伺って、必要なものであったりとか準備の具体的ところを確認するだけで終わってしまいがちだったんですけども、一度、体験をお願いしたことがありまして、お掃除をさせていただくことが、何か2時間くらい現場に話していただくというようなことをお願いしたことがありました。それ自体はよかったんですけども、なかなか交通機関が難しく、挫折してしまったりということがあります。</p> <p>先ほど義①の先生のほうからもお話がありましたけれども、少し実習に向けて、(46)その施設で何が学べるのかということを学生がしっかりとイメージできるように自身ということと場所を相談して、これから、もう少しやっていけたらいいのかなと。かなり具体的なところをお伝えいただいているということなので、こちらのほうでも、どういったことをお願いしているかということをちょっと考えていききたいとは思いました。</p>	<p>施②：(143)カリキュラム表を作っていて、われわれの職員の仕事というのが、実際、どういう仕事をしているのかという業務への仕分けをした後に、その業務の仕分けを、本当に広く浅くなんですけれども、社会福祉士への実習ですと24日間、保育士の実習ですと11日か、12日になるんですけれども、その中で広く浅くできる内容というのを整理し、1日目だったら、1日の流れを知るとか(149)小題目、チェック項目を付けて、カリキュラムを作って、(144)全体的にケアワーカーの仕事を体験できるような実習を提供している。</p> <p>(119)職員としてやるとき内容を全体的に経験してもらおう。子どもたちとの関わりは当然ありますし、子どもたちの関わりだけではなくて、家事全般もを行いますので、「当園の仕事とは何か」というところを経験してもらっている。カリキュラムを作ることによって、何となく1日の流れ、何となくこうするのではなくて、(145)その日のポイント、例えば、子どもの、今日は受容とか傾聴にポイントを置くとか、年齢幅がいろいろなる子どもたちがいる中で、今、自立に向けて取り組んでいる、自立に向けての子どもたちを中心にみるとか、日によって、カリキュラムによって、何をすべきか。いつも学生も計画は立ててくれるんですけども、(145)何となくではなくて、日々、何をするかというのを決めてやっているというところは工夫している。7年ぐらい前からやっている。</p> <p>以前は、学生に渡すのが何日は何時から何時というだけだったものを、そこに、その日の内容が書かれています。その日にできなかつたら、(146)積み残し課題という形になりますので、私たちも実習に教えていくに当たって、「ああ、</p>
<p>実習期間中の経験内容</p>	<p>施②：さっきの(120)夜勤、夜間に身を置くというのも一つのポイントとしてうたうと。それと、例えば(125)入所理由は、その施設が事業報告のときに要約してまとめたやつを説明する方法もあるんですけども、やっぱ要約しているから2次情報になっちゃうやうんで、夜勤実習のときに児童相談所からの相談受付等、(120)生の1次情報に触れると、何か揺さぶるものがあるようです。(120)今、目の前にある子どもが、こういう連のりというのは、やっぱかなり壮絶な子どもたちが多いので。</p> <p>それと、さっきの日常生活動作のことも言った上で、やっぱ(127)食事、それから着脱衣、入浴、睡眠、排せつ。やっぱケアを受ける側は、排せつというデリケートな行為を他人に委ねるのは、心の痛みとか。</p> <p>重い障害の人は、知的能力を含めて、衛生的であることの理解が難しいというところも。やっぱこういうことは、(130)すぐには変わらないかもしれないないけれども、体験、体感してほしいのと。</p> <p>あとは、直接的な権利擁護というよりも、(123)間接的な権利擁護として、やっぱ清掃とか、その空間を奇麗にすること。サービス業のアルバイトをしている学生とかは、比較的そういうものの感度のいい人もいますけれども、やっぱこういう点も、当たり前なことなんですけれども、意識して、してもらおうように思っています。</p> <p>施①：乳児院のほうでも、夜間の部分を知っていただくというところでは、(120)夜勤実習を必ず1回は入っていただくようにしています。その中で、や</p>	<p>施②：(143)カリキュラム表を作っていて、われわれの職員の仕事というのが、実際、どういう仕事をしているのかという業務への仕分けをした後に、その業務の仕分けを、本当に広く浅くなんですけれども、社会福祉士への実習ですと24日間、保育士の実習ですと11日か、12日になるんですけれども、その中で広く浅くできる内容というのを整理し、1日目だったら、1日の流れを知るとか(149)小題目、チェック項目を付けて、カリキュラムを作って、(144)全体的にケアワーカーの仕事を体験できるような実習を提供している。</p> <p>(119)職員としてやるとき内容を全体的に経験してもらおう。子どもたちとの関わりは当然ありますし、子どもたちの関わりだけではなくて、家事全般もを行いますので、「当園の仕事とは何か」というところを経験してもらっている。カリキュラムを作ることによって、何となく1日の流れ、何となくこうするのではなくて、(145)その日のポイント、例えば、子どもの、今日は受容とか傾聴にポイントを置くとか、年齢幅がいろいろなる子どもたちがいる中で、今、自立に向けて取り組んでいる、自立に向けての子どもたちを中心にみるとか、日によって、カリキュラムによって、何をすべきか。いつも学生も計画は立ててくれるんですけども、(145)何となくではなくて、日々、何をするかというのを決めてやっているというところは工夫している。7年ぐらい前からやっている。</p> <p>以前は、学生に渡すのが何日は何時から何時というだけだったものを、そこに、その日の内容が書かれています。その日にできなかつたら、(146)積み残し課題という形になりますので、私たちも実習に教えていくに当たって、「ああ、</p>